

小さな街の大きな力

「歴史的な背景は：」川副さんの話によると、佐賀藩が、茂義の時代に長崎の警護を任されたことがキッカケになっているという。兵士の出兵なども含めると佐賀藩への財政的な圧迫は相当なものだったと考えられるが、元来「知」に対して貪欲だった茂義は、これを逆にチャンスと考え、オランダの商人たちと直接交渉しながら、全国に先駆けて西洋の技術を次々と導入しはじめたのだと。

西洋式大砲モルチール、牛痘法種痘：実は、日本初の西洋技術がここ武雄で実用化されたものは数多い。この結果、明治維新期には、単なる地方藩の属領である武雄領の兵士が、新政府軍にとって「最後の切り札」と言わしめるまでの、洗練された技術と力を持つに至ったのだ。

まだまだ他にもある。「オランダ東インド会社の紋章入り麻袋」、これも世界に一つという。他にも「エレキテル」「天球儀：地球儀」：いや、そんなもんじゃない、これもあれも：。それぞれが武雄に知をもたらした価値ある逸品なのだ。

今回の国の重要文化財に指定されることになった理由にもなっているのだが、過去の産物として語る歴史は全国に無数にあるが、地元根付いた洋学資料がその地に集結しているのは、全国に武雄だけというのだから、その意義は計り知れない。

天球儀

オランダのアムステルダムで地図や球儀を製作したファルク親子によって1745年に作られたもの。地球儀とともに一対で輸入されたと考えられる。

